東京ジャーミイ金曜日のホタバ

人が自らを忘れること

2011 年 6 月 3 日

親愛なるムスリムの皆様。アッラーは人間を最も美しい形に創造され、知能や意志という優れた特徴を与えられ、地上の秩序と規律を維持するために「カリフ」を地上の責任者、統治者、総括者として遣わされました。このカリフとしてのつとめが必要とするところとして、私たちはただ自分たちに対してだけではなく、家族、遠い近いを問わず周囲のすべての環境、さらには生命体、あるいは生命体ではないすべての被造物のバランス、秩序に対し責任を持っているのです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。私たちが生きている時代の危険の一つが、世俗化することです。過度な現世への執着が拡大し、来世が忘れられてしまうことです。現世と来世のバランスを保つことを目的とする私たちの教えは、人が中道をいくことを勧めています。人は時折、欲望に支配されてしまい、自らに与えられている責任を忘れることがあります。それゆえ私たちの教えは、私たちに正しい道を示し、欲望やシャイターンの悪だくみに負けないよう私たちに警告を与えているのです。クルアーンでは次のように命じられています。「信仰する者たちよ、悪魔の足跡に従ってはならない。あなたがたがもし悪魔の足跡に従うならば、かれは必ず醜い行いと悪事をあなたがたに命じるであろう。」（御光章第２１節）

親愛なるムスリムの皆様。世俗化という病への方策は、現世での生がはかないものであることを忘れず、来世での生と審判の場での尋問をいつでも認識することです。預言者ムハンマドはこの点について次のように述べられておられます。「私が去った後、現世の恵みや装飾があなた方の前に繰り広げられ、あなた方がそれに魅了されることを恐れている。」預言者ムハンマドのこの警告は、現世を放棄するという意味のものではありません。事実ある時預言者ムハンマドは、現世を放棄し崇拝行為を行うことを決意した三人に警告を与えています。クルアーンでは現世の全てが人間のために創造されていると告げられています。さらに、私たちがしばしば唱える「ラッベナー　アーティナー」ではじめる章でも、「主よ、現世でわたしたちに幸いを賜い、また来世でも幸いを賜え。業火の懲罰から、わたしたちを守ってください。」（雌牛章２０１節）という形でドゥアーすることが勧められています。

親愛なる皆様。人が自らを現世に夢中にさせ、来世を忘れる時には、それ以外にも多くのことを忘れることになるのです。クルアーンは教えています。欲望や現世のしもべとなった人間は、アッラーを、最後の審判の日を、尋問を忘れます。警告や忠告を忘れます。罪を忘れます。苦しみが去った後には、アッラーに懇願することを忘れます。

フトバを、崇高なるクルアーンのある警告で締めくくります。「あなたがたは、アッラーを忘れた者のようであってはならない。かれは、かれら自身の魂を忘れさせたのである。これらの者はアッラーの掟に背く者たちである。」（集合章第１９節）